

自主防災活動とコミュニティスクール

岐阜県羽島市 小熊新生防災会

■自主防災活動とコミュニティスクール

(1)小熊新生防災会の発足と活動の経緯

私たちの小熊町新生町は羽島市北西部に位置し14自治会で構成されている。自治会への加入世帯数は約1500世帯。

各自治会には市からの指導もあり自主防災組織が設定されているが、活動はほとんど見られないのが現状である。自治会長がトップを務め他の役員班長が名を連ねる形式的な物です。加えて役員等は輪番制でその年度を無事に過ごせば任務完了、防災への意識が高いとは言い難い現状であった。

羽島市は、平成25年から防災コーディネーター養成講座を実施し、平時には防災啓発活動などにあたり、災害発生時には率先して地

区での避難所運営や救護救援にあたる人材の育成を始めた。

年度毎に数十名の防災士又はそれと同様の知識技能を持つ人材を輩出し、平成28年までに小熊地区に16名の防災士が在住することになった。

現状の自主防災組織では災害時はもとより平時においても満足な防災活動が出来ないと考え、小熊在住の防災士が集まり暫定的に小熊防災研究会として啓発活動などを行う組織を立ち上げ、地域と防災士が共に活動する実効性のある自主防災組織の形成を地区のコミュニティセンターや自治会へ働きかけを行った。

結果、平成29年4月29日、小熊新生軽スポーツ大会において、防災体験コーナーを設置、



2018年4月29日 第1回小熊町防災訓練 開会式(羽島市長による挨拶)参加者約300名

これが活動の原点となった。11月5日に小熊コミュニティセンター運営協議会で防災講座



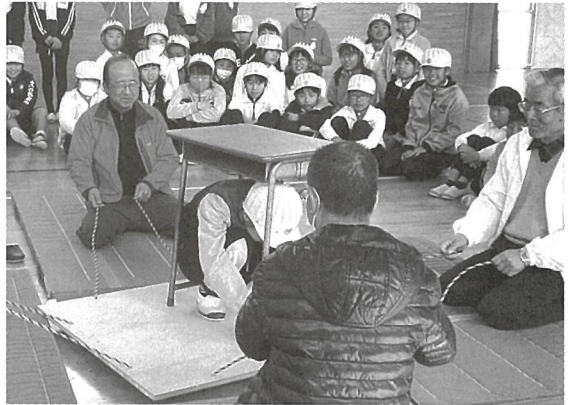


2019年9月27日 小熊小学校・防災学習
簡易実験装置を使って液状化の起きる仕組みを学ぶ

開催、翌年3月11日の町民文化祭において一般市民向け防災講座を開催など地区内での活動を徐々に広げていくこととなった。

平成30年4月29日、第一回小熊新生防災訓練を企画。小熊地区全体では初めての防災訓練の実現に至った。この訓練への参加者は300名を超え、この地区での活動の目途が立ってきた。

平成30年8月18日、この年に新たに防災士となった14名を加えて30名で小熊新生防災会として改組し、小熊コミュニティセンターの専門組織として運営協議会にも加盟し自治会組織の中にある形式的な自主防災組織とは違う自主防災組織として誕生するに至った。



2020年2月12日 小熊小学校・防災学習
簡易起震装置を使って実際に揺らしシェイクアウト姿勢を体験

一方で、平成30年4月に羽島市立小熊小学校が実施していた防災避難訓練にアドバイザーとして参加、児童の行動観察を行い助言するなどを行った。以降この訓練の計画段階から参画し訓練内容の設定から助言していく形となる。名称も「命を守りきる訓練」と改称して年3回実施、10月の岐阜県地震防災の日に併せて1時間の授業枠を使い地域の防災士が児童に向けて防災授業を行うこととなる。

地域と学校が一体となって児童の防災教育を行うことは全国的に見られるが、羽島市内では初めてのケースであった。普段見かけるおじさんおばさんが学校での防災教育を行う



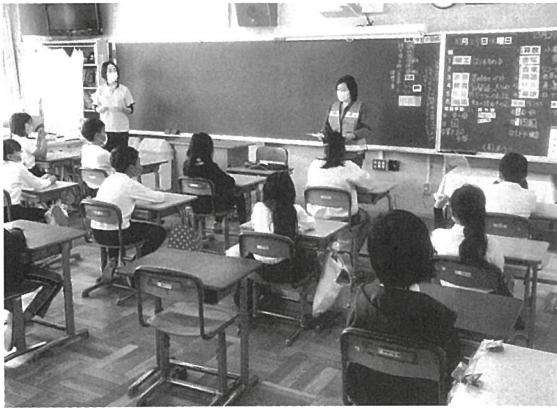
2020年9月27日 小熊町防災訓練
避難所開設訓練 感染症対策型の設営を行う

ことは専門家を呼んで行う防災教育とは違い、子どもたちにも防災がより身近なものとして感じられるようになった。

(2) 市内での防災活動への波及効果

前述のように羽島市は毎年防災士を養成しており、300名を超える防災士が在任している。我が小熊地区での防災士と自治会等が共同で啓発活動を行うスタイルは徐々に市内の他の地区でも取り入れるようになり一般的になりつつある。

学校における協働活動もコミュニティスクール構想にもマッチしていることから羽島市ではこれを「小熊モデル」と呼んでおり、



2020年10月28日 小熊小学校防災教室
各教室に防災会から講師が入り1時間の授業で防災を学ぶ

この活動が徐々に他の学校でも導入され、現在羽島市内5校で同様の取り組みが行われている。
我々の活動が単に小熊地区に留まらず、こうして市内全域に拡がりを見せはじめていることから、羽島市では市民レベルのエキスパートが地域と連携して活動を継続的に行う先進的な例として高く評価を頂いているが、形ばかりの自主防災組織にはない防災士の資格を持つ者の集団として当然の任務を果たしているだけと我々は捉えている。

(3) 地区防災計画作成
設立時の目標の一つに地区防災計画の作成



2022年4月17日 地区防災計画作成ワークショップ
コロナで止まった活動を再開 地区の課題や今後の展開を協議

がある。地区防災計画とはその地区の居住者等が行う自発的な防災活動に関する行動計画で、我々は、令和3年度からこれに着手した。しかしながらコロナ禍でワークショップや催事等が行えず足踏みを続けてしまった。
令和4年度に入り状況が落ち着きを見せ始めたタイミングで活動を再開。
地区住民に対しての防災意識調査、子ども会と合同で「防災まち歩き」を行い地区内の防災上の危険個所の洗い出し作業など広く地区住民の協力を得ながら2年越しで12月に草案を完成させた。その後、若干の修正を行ったのち最終案を羽島市に提出。令和5年2月の羽島市防災会議において承認された。



防災まち歩き
子ども会と合同で開催 地域内を計6回に分けて実施

(4) 今後の課題
地区防災計画に盛り込まれたそれぞれの取組を令和5年度に入り、できることから実行に移し始めたが、今が完成形ではなくこれから地区住民で育て上げていくものだと考えており、見直し修正を図る機会を設けていかねばならない。
小熊地区での取り組みや活動の成功例や失敗例を羽島市内全域で共有し、地域と防災士が協働で行える実効性のある自主防災組織の拡大を目指す、範となる活動や取り組みを展開していく必要性を感じている。

(小熊新生防災会会長 疋田一男)